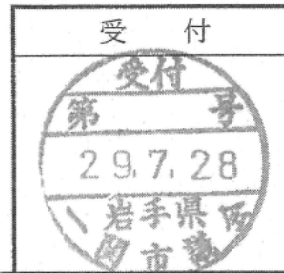


調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議長 千葉大作様



報告年月日	平成29年7月28日		
実施日(期間)	平成29年6月26日～平成29年6月28日		
実施場所 (行先等)	北海道美唄市・富良野市・滝川市		
事業区分 (いずれかに○)	○研修 調査研究 要望・陳情活動 会議		
事業内容	○北海道美唄市「廃校を活用した施設」について ○北海道富良野市「移住促進協議会の活動について」 ○北海道滝川市「地域おこし協力隊(観光の活動)について」		
報告者	(会派名) 関新会 (代表者) 槻山隆		
参加者	議員 槻山隆	議員 岩淵一司 (印)	
	議員 橋本周一	議員 佐々木賢治 (印)	
	議員	議員	
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙(1) 2. 概要・・・・・・・・別紙(2) 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙(3)		
主要 資料名			

北海道美唄市「廃校を活用した施設」

1. 日時：平成29年6月26日 15:00～17:00
2. 目的：調査事項「廃校を活用した施設」について

現代社会に於ける課題は人口減少に起因する。高齢社会、そして特に少子化は深刻である。当市に於いては1年間に1,000人から1,500人の人口減少が続いている。平成17年9月に新一関市が誕生して11年になる。この間、子供の出生数も減り、小学校の入学児童も少なく、小学校の統廃合が続いている。そして、課題は地域に残された校舎及び体育館やグラウンドの利活用である。市にとっても地域にとっても重要であり、今後の地域の活性化・まちづくりに直結するものである。これらの課題を他市の先進事例に学ぶためである。

3. 視察先の概要

北海道は広いとまず実感した。国道12号が美唄から滝川までの日本一の直線29.2kmが出迎えてくれた。美唄市は人口2万3千人。石狩平野の中央部に位置し、大正から昭和にかけて石炭産業で栄えたが現在は全国有数の生産高を誇る米など農業と内陸型工業団地を有する自然に恵まれた農工都市である。例外にもれず、人口減少、高齢化・少子化は課題であり廃校の利活用に取り組んでいる。

4. 参考とすべき事項・所感

2つの学校の跡地利活用について現地にて視察した。

(1) 北海道靈芝美唄工場

靈芝とはマンネンタケ（万年茸）の漢名であり、靈妙は働きのあるきのこのことである。この会社は北海道北広島市を拠点に靈芝栽培に関する事業を続けて来た専門会社であり、この度旧西美唄小学校の利活用のチャンスを得て、ここを拠点として日本全国、更に全世界に向け、ここ美唄から発信することを目指して靈芝の培養、栽培、製品化、商品化の一貫生産をめざし、平成28年12月末までに第一期生産設備を完成し平成29年2月から本生産稼働に入り、この旧校舎より商品として出荷している。

この利活用について行政からの無償貸与ではなく、あえて購入とのこと、貸与は返す時に施設を元に戻さなければならないこと。学校なので不特定の人が入り出す施設にするためには多くの経費がかかること。

まずは工場として利用することとし、一般の人を集めるためには道の駅とか、外に人を集めることをしなければならないという。

体育館を利用して高品質な鹿角霊芝を栽培して館内のハウス栽培に驚きとこのような活用法もあるのかと感心した。二階の教室の利活用を工場拡大に伴い順次考えていくとのこと、純北海道産の天然ナラ原木を使用し、北海道で栽培し安全なトレーサビリティを美唄からの発信に旧小学校が利活用されていることに夢を感じることができた。

(2) 安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄

入口に立った瞬間、その旧校舎は緑もあざやかな大自然と彫刻とが相響する野外彫刻公園の中に木造校舎が誇らしげに立ち、私達を迎えた。

73年炭鉱の灯が消え学校も廃校。美唄出身の彫刻家と旧栄小学校の出会いから始まった学校跡地の利活用である。市の観光の主なものの一つで年間3万人弱の入館者数である。公園・校舎の内にある彫刻作品44点にも及び直接ふれることができる。管理運営はNPO法人により年間4,000万円の事業に補助金として委託費約2,000万円が予算化されている。

アートスペース、市民ギャラリー、体験工房、喫茶などの運営を正職員6人、パート職員5人、定休は火曜日としている。尚、入場料は無料で取っても少ないものだから…とのこと。

このような形で利活用されるのであれば旧校舎も、卒業生も、地域としても嬉しいものだろう。

5. 添付書類

(1) 北海道霊芝美唄工場の資料

(2) 安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄の資料

29年度視察報告書

1、 視察目的

少子高齢化が進み、人口減が進む中で、いかに地域に「人」を呼ぶための対策が求められている。その一つに、移住対策がある。今回は富良野市で行っている、ふらの市移住促進協議会の活動について研修する。

2、 視察先概要

別紙資料

3、 参考とすべき事項 所感

富良野市においては、市当局はじめ、農協 商工会議所 山部商工会 観光協会 建設業会 宅建業会など趣旨に賛同する構成団体に所属する会員が構成団体となっている。富良野市への移住希望者を対象として、民間団体と市が連携・協力して、移住を促進し、地域振興を図っている。

北海道では、平成27年度より、「北海道空き家情報バンク」を開設、運営しているので、道全体での取り組みが行われている。市町村単独でなく北海道としての取り組みが大いに評価できる点である。

北海道滝川市「地域おこし協力隊（観光の活動）」

1. 日時：平成 29 年 6 月 28 日 10：00～11：30
2. 目的：「地域おこし協力隊（観光の活動）」について

人口減少は行政への施策に、各業種の企業への多大なる影響を及ぼしている。こと更地方での人材不足は深刻である。定住人口の減は地域に与える経済的影響が大きく、年間当たり 1 人の消費額は 125 万円である。これをまかなうには交流人口の増が求められている。一関は県の平泉世界遺産・三陸海岸・須川栗駒の玄関口に当ると共に県内有数の観光地をも有している。観光客のニーズも大きく変化する中、市内観光協会の合併、そして一関・平泉日本版 DMO の設置も図られようとしているところです。そのインベーションに向け人材が問われている。先進地の事例を学ぶためである。

3. 視察先の概要

人口 4 万 1 千人。札幌と旭川のほぼ中間に位置し石狩川と空知川の合流点の肥沃な大地に広がる農業と商業のまち。道央と道東を結ぶ交通の結節点であり、年平均気温は 7 度前後と訪れた日も涼しく北海道を感じた。観光資源は数々あるが何と云っても菜の花畑の面積は日本一である。そして菜の花は一関市の花でもある。

4. 参考とすべき事項・所感

主な観光資源は、①日本一の菜の花畑、②グライダー搭乗体験、③味付ジンギスカンである。観光客は年間 70 万人のうち宿泊は 2 万人とのことである。周辺の富良野や大都市があり、通過型である。

この度「地域おこし協力隊」の観光への取り組みに特化し研修をした。現在の協力隊は、任期 3 年間で観光国際課で 2 人、産業振興課 4 人、社会教育課 2 人の計 8 人が任期中であり、それぞれの分野で活躍している。平成 26 年度に導入、この 1 期生 2 名は観光国際課に所属市観光業務支援、経済効果に寄与する活動として、観光協会の強化、イベントの支援のため導入されたものである。その一人はなんと北上出身、札幌市在住であった。彼の業務内容は観光協会の業務イベント支援、地域活性化活動、地域自然体験、プログラムの企画実施、特産品の掘起しなど含めた IT による発信・PR である。注目すべきは、任期 3 年間の取り組みが明確なことである。

1年目、まずは人脈づくり、町の様子を知るため協会に席を置き「滝川市地域おこし協力隊」のフェイスブック開始。又、人顔を知ってもらうため、地元FMラジオのパーソナリティを務める。2年目彼らの特性とやりたい事業に基づいて部署を考慮し配置する。フェイスブックも多くのアクセスと共に地域情報発信ウェブサイトも独学で立ち上げた。そして3年目、協力隊としての事業を進めつつ、任期終了後の自ら進路を具体的に模索する期間としての活動。市内最大の観光イベント「たきかわ菜の花まつり」のチラシ作製「サマースカイフェスティバル」の出張部会を担当するなど実行委員や商店街から厚い信頼を得て事務局の責任者となった。結果として任期終了後にデザイン会社を起業し、滝川に残り本格的営業開始している。この地域おこし協力隊事業は総務省推進事業であり、都市住民を地方に送る支援事業と考える。その街に愛着を持ち、任期後定住につながり、地方を元気にしてくれる外部の視点をもった人口が増える。しかし、課題もある。終了後、働く場がなければ転居してしまう。特別交付税での処遇のため報酬月額166,000円+家賃35,000円程度と安く、良い人材を集めるために苦勞する。又、受け入れ側としては4,000人登録の中から選ぶため求める人材像の明確化、任期3年間の協力・支援体制の強化が不可欠である。また、任期後、4割の隊員は地域を離れていく現状である。当市に於いても様々な分野で大いに参考すべき事例である。

5. 添付書類

「滝川市地域おこし協力隊」資料